

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・クワコナカイガラムシ No.1)

平成24年5月7日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

クワコナカイガラムシ越冬卵からのふ化は平年より2日遅い5月4日に認められた。昨年、果実被害が多く認められた園では防除を徹底する必要がある。

2. 情報の根拠

- (1) クワコナカイガラムシ卵のうからの越冬世代幼虫のふ化*は、平年より2日遅い5月4日(平年:5月2日)に認められた。
- (2) 今後の気象経過などから、越冬世代幼虫のふ化最盛日は5月8日前後(平年:5月6日)と見込まれる。

*クワコナカイガラムシ越冬卵からのふ化は、百葉箱内(園試)で観察。越冬卵をシャーレ中央に静置し、越冬卵周囲に粘着物質を塗布、その粘着物質に捕獲された幼虫数を計数。6卵のうの調査。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 昨年被害の多かった園では、必ず2回防除を行う。特に、越冬世代は、第1世代及び第2世代よりふ化時期が揃いやすいので防除を徹底する。
- (2) 昨年度多発した園では、5~7日間隔で以下の時期を目安に2回の防除を行う。
 - ・幼虫ふ化最盛期 5月 8~12日
 - ・幼虫ふ化終期 5月 13~17日少発の園では5月12日前後に1回防除を行う。
- (3) 薬剤はスプラサイド水和剤1,500倍液又はアプロード水和剤1,000倍液などを使用する。
- (4) 薬剤の散布にあたっては、クワコナカイガラムシが集合する枝葉の他、枝の切り口及び粗皮下などに薬剤が十分かかるようにする。
- (5) 農薬の散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守する。